

《 10月 マーケット概況 》

資産クラス	指数	8月	9月	10月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	15,424.59	16,173.52	16,413.76	1.47%	0.75%
	マザーズ指数	962.63	931.21	883.85	-5.22%	-7.87%
外国株式	S&P500	2,003.37	1,972.29	2,018.05	2.29%	9.18%
	MSCI Europe	1,752.98	1,685.78	1,640.22	-2.74%	-4.75%
新興国株式	上海総合指数	2,217.20	2,363.87	2,420.18	2.35%	14.38%
	ムンバイ SENSEX	26,638.11	26,630.51	27,865.83	4.53%	31.62%
海外金利	米政策金利	0.25	0.25	0.25	-	-
	米国債 10年	2.34	2.49	2.34	-	-
国内金利	政策金利	0.10	0.10	0.10	-	-
	10年物国債	0.50	0.53	0.46	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	104.09	109.65	112.32	2.41%	6.66%
	ユーロ	136.69	138.49	140.68	1.57%	-2.80%
コモディティー	ICE 原油(先物)	104.17	95.32	85.86	-10.45%	-22.14%
	COMEX 金(先物)	1,287.40	1,211.60	1,171.60	-3.36%	-2.61%
不動産	東証 REIT 指数	1,648.90	1,670.89	1,716.55	2.70%	13.30%
ヘッジ・ファンド	HFRX 指数	1,249.57	1,240.01	1,219.50	-1.67%	-0.49%

データ出所: BLOOMBERG

◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

[10月の金融市場]

10月の金融市場は、月初から月央にかけてはリスクを落とす動きから、株式は下落し、債券へと資金が流入する動きとなり、月央以降は再びリスク資産へと資金が戻る動きとなりました。

9月末に110円に迫ったドル円は、一気に円高・ドル安の動きとなり、10月15日には105円台に乗せました。株式は世界中で売られ、各国で9月の高値から10%前後の調整する場面がありました。久々の株価の調整に市場の混乱が高まり、米国のVIX指数は9月末の15%台から一時30%まで、日経平均ボラティリティ指数も9月末の17%台から一時30%まで上昇しました。月央以降はリスクオフの動きは収束し、その後は徐々に株価は上昇し、債券利回りは上昇、ドル円は円安・ドル高に動きました。

この株価下落の原因は、欧州経済の成長鈍化やエボラ出血熱の流行への不安、米國中銀の量的緩和の終了、日本独自の要因としては、第2次安倍改造内閣の閣僚が資金問題などにより、辞任に追い込まれたことが挙げられます。それらの影響を受け、様々な商品で価格の調整が起きました。

[今後の見通し]

11月は月初の米国中間選挙とECB理事会、月央のAPECとG20、日銀政策会合など注目すべきイベントが多くあります。まずは、金融市場の不安定な動きの一因となった欧州景気の鈍化に対し、ECBが国債の買い入れに踏み込めるかに注目が集まります。しかし、これが決定されても欧州景気を回復させることは難しいと思われます。欧州景気の回復にはやはり、財政支出が必要となりますが、それをドイツが認める可能性は低く、欧州経済の成長率は停滞、もしくは低下がメインシナリオとなるでしょう。他に注目すべきイベントはAPECで日中の首脳会談が行われるかどうかです。日中の関係が改善するなら、アジア地域の景気の拡大に繋がります。

日本では月末に臨時国会の期末を迎えますが、閣僚の辞任などから経済重視の国会とはなっていません。現在報道されているところでは、安倍政権は補正予算を考えているようです。しかし、株価の押し上げのためには、法人減税など期待されている政策の決定が不可欠だと考えられます。

10月の相場を不安定にした要因が未だ解決していないため、株価は不安定な展開が継続しやすい環境です。しかし、本格化している日本企業の決算発表の内容は良いので、大きく下値を切り下げる可能性は低く、株価はレンジの上限に迫る場面もあると予想されます。

JPX 日経 400

JPX 日経 400 は、株主資本利益率(ROE) や経営観点などを銘柄選定の基準とした新株価指数です。投資家にとって投資魅力の高い組み入れ銘柄によって構成されているため、極めて優良なポートフォリオになっていると考えられます。また、銘柄の選定は東証1部銘柄に加え、東証2部銘柄、マザーズ銘柄、JASDAQ 銘柄などの新興市場も含まれていることから、これまでの枠組みを超えた指数となっています。

組み入れ銘柄は基準日となる6月最終営業日の時価総額等を元に見直されます。追加、除外リストは8月第5営業日大引け後に公表され、同月の最終営業日に前営業日の終値で入れ替えを行います。

今年1月の指数算出開始とほぼ同時に同指数を対象としたETFが設定され、少ない資金でもこのポートフォリオに投資することが可能になりました。NISA 口座を活用する場合などの有効な投資先の一つといえるでしょう。

また、最近、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が国内株式での運用比率の目安を現在の12%から20%台半ばへ引き上げる方向で調整に入ったことが話題になりました。GPIFはJPX日経400をベンチマークに採用しており、今後の投資資金流入が見込まれます。さらにJPX日経400は、海外においても知名度が高まりつつあることから、日経225とTOPIXに続く日本を代表する株価指数に育つ可能性もあると考えられます。

11月25日からは、同指数の先物取引も開始されます。先物の登場で同指数がより広範囲に認知され、相乗効果でETF取引が活発になることも期待されます。

【 JPX 日経 400 代表銘柄 (高 ROE・時価総額上位10社) 】

順位	証券コード	社名	11/4 終値 (円)	今期 ROE (%)	今期配当利回り (%)	時価総額 (百万円)
1	7203	トヨタ自動車	6,800.0	13.70	2.42	23,242,382
2	9984	ソフトバンク	8,027.0	29.54	0.49	9,637,700
3	2914	JT	3,930.0	19.85	3.39	7,860,000
4	9433	KDDI	7,548.0	12.95	2.11	6,770,281
5	8316	三井住友 FG	4,543.0	12.26	2.64	6,424,054
6	7267	本田	3,536.5	10.47	2.48	6,406,116
7	8411	みずほ FG	203.8	11.12	3.43	4,971,277
8	6902	デンソー	5,290.0	11.51	1.79	4,676,723
9	9983	ファーストリテイリング	41,500.0	12.54	0.77	4,402,056
10	6501	日立製作所	879.0	11.20	1.36	4,248,614

チャートから見た投資戦略 ⑤

今月は、「チャートから見た投資戦略」の5回目です。

下表は2012年11月以降の日経平均終値の日足です。移動平均線はそれぞれ10日、20日、100日で設定しました。

【日経平均終値の日足】



日経平均は、2014年9月末に高値である16374.14をつけましたが、10月半ばに2012年11月の安値と2014年8月の安値を結ぶトレンドライン①を割り込みました。さらに10日移動平均線が20日移動平均線および100日移動平均線を上から下へ突き抜けるデッドクロスを形成し、下降トレンド入りをするかと思われました。しかし、その後10月17日を安値に切り返し、以前に割り込んだトレンドライン①が抵抗線となることもなく今年ほぼ一本調子で上昇しました。そして、10月31日には大きな出来高を伴い、年初来高値を更新しました。

日経平均は、2013年12月末の高値や今年9月末の高値を明確に抜けてきました。今後調整局面に入った場合、今までの高値であった16300円近辺やトレンドライン①が支持線として機能すると思われます。それらの支持線や2012年11月の安値と10月の安値を結ぶトレンドライン②を割り込まない限り、上昇相場が続くことが期待できます。

次に日経平均終値の週足を見てみます。

【日経平均終値の週足】



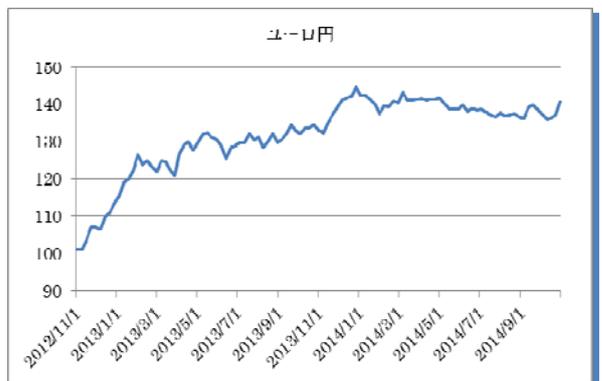
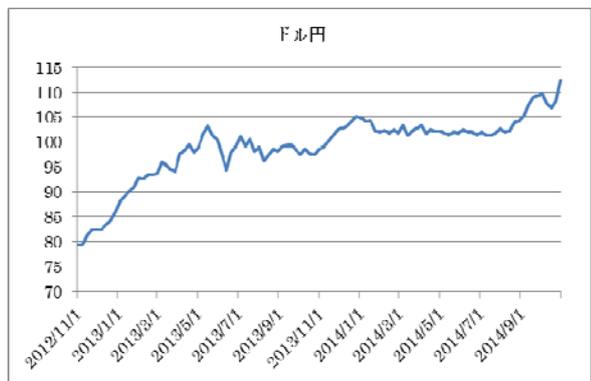
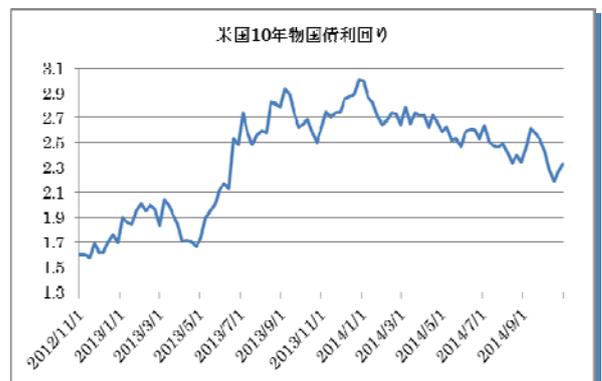
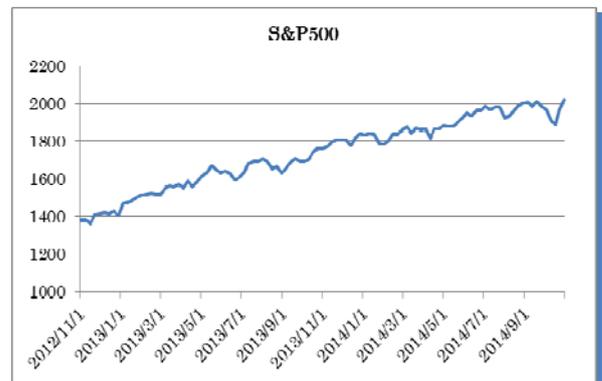
日経平均は9月末の終値を高値にして、2012年11月の安値と今年8月の安値を結ぶトレンドライン③を割り込み下落しました。しかし、2013年7月の安値と今年5月の安値を結ぶトレンドライン④を下抜けることなく切り返し、年初来高値を更新しました。

今後は、2012年11月の安値と2014年10月の安値を結んだトレンドライン⑤を下抜けすることなく、さらに上昇を続け2007年の高値18252.67のライン⑥を超えることができるのかが注目されます。

[今後の投資戦略]

日経平均は、2013年の高値を抜けて、さらに年初来高値を更新してきました。更なる上昇が期待できますので、しばらくは買いを中心に考えていいのではないかと思います。まずは支持線となるトレンドライン①③上や16300円付近など押し目を拾うスタンスで臨みたいですが、しかし、トレンドライン②④⑤を下抜ける場合は下降トレンド入りする可能性があるため、買いポジションは外した方がよいと考えます。

◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 … 小川 英幸

そうだったのか！「知って納得、証券投資」Vol.63-① … 深江 勇啓
JPX日経400

そうだったのか！「知って納得、証券投資」Vol.63-② … 野上 信彦
チャートから見た投資戦略 ⑤

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第 14 号 加入協会：日本証券業協会

本店 〳 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 2-1-10 TEL:06-6209-0821

東京店 〳 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 9-9 TEL:03-3667-7721

